

コンテンツ活用授業実践事例

①



■使用教材

- ① 生徒による班別のパネルセッション「城の崎にて」（自作パネル）
- ② アプリ『camscanner』

■発売元

- ② INSTING Information Co.Ltd

■概要

- ① 教科書所収の「城の崎にて」を班別にまとめ、B4版1枚のパネルに作

②



高等学校 国語 現代文 1年 学習した内容をみんなにプレゼンしよう

■本時の目標

「城の崎にて」を班別にまとめる。まとめ方や先輩たちが作ったものを事例としてプロジェクターで示し、各班でまとめ方を工夫させる。また、生徒がまとめているパネルをプロジェクターに映し出して、まとめ方や視点を確認させ、作品の内容理解を深める。

■学習の流れ（図書館で授業を行う。グループ学習を行う。）

導入 1 本時の目標と流れを知る。

- 2 B4版1枚を各班に配付し、パネル作成の留意点を説明する。

展開 3 班で話し合い、必要な情報を図書館にある資料を用いて調べる。

- 4 プレゼンテーションしやすいように工夫してパネルを作成

ポイント1

パネル作成方法や実例を具体的にプロジェクターで映すので、生徒たちはパネル作成中に確認できる。また、『camscanner』を用いて、作成中のパネルなどもプロジェクターで映し出すことで、生徒自身が互いに確認したり工夫したりしあえる。

ポイント2

生徒自身がそれぞれの疑問点をグループで話し合うことで、図書館での調べ学習に対して主体的・意欲的に取り組む。

コンテンツの評価・振り返り

「城の崎にて」は小説教材として定番のものであり、生徒が班別にまとめてプレゼンをするという授業展開も目新しいものではない。また、図書館で資料を集めまとめを工夫し読解を深める手法も試みられている。今回、それらをiPadを用いてプロジェクターに映し出すというやり方を導入したことで、班別活動のあいだ生徒が適宜確認できるという利点や、生徒の作成中のものを『camscanner』を用いて、プレゼン資料として映し出すことにより、生徒の注意や意欲を喚起することができた。また、『camscanner』はカメラアプリと異なり、ある程度の画像編集がその場でできるため、生徒の作品をリアルタイムに見やすく映し出せるという利点があった。

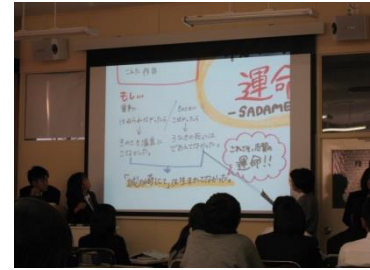
学校司書のサポート

- 1 図書館の蔵書から「城の崎にて」パネルの作成に有用な資料の探し方を教える。
- 2 近隣の公共図書館から授業に有用な資料を取り寄せ準備しておく。
- 3 放課後等で本授業に関わる資料検索をする時のアドバイスや、近隣の公共図書館にある資料の検索方法を教える。
- 4 授業担当とチームティーチングで授業をする。
- 5 参考文献の明示の仕方を教える。

■ デジタルコンテンツの評価

評価項目		評価 (○△×) (該当なし)
操作	1 難しい操作がなく、容易に使えるか。	○
	2 開始・終了を素早く、容易にできるか。	○
内容	3 学習指導要領・教科書に準拠し、学習に役立てることができるか。	○
	4 内容が新しく、正確であるか。	○
	5 目次・索引があるか。	×
	6 写真や図版は、実物の色彩や形態を正しく表現しているか。	△
	7 該当学年に応じた内容になっているか。	○
	8 情報量は適切か。	○
	9 適切な表現がされているか。	○
	10 デジタル教材としての特性が活かされているか。	◎

■ 授業風景



「城の崎にて」をプレゼン中



図書館でパネル作成中

授業者：林田九平（国語科） 情報提供校：岡山県立岡山 平成 26 年 12 月 18 日 作成者：林田
東根さやか（司書） 芳泉高等学校